

田植え体験学習レポ

三瀬 英信

例年は梅雨の合間をぬっての体験学習だが、今年の梅雨はすこし遅れていて、薄曇りの天気の中で、佐保台小学校5年生たちが息を弾ませて高揚感に満ちた元気な姿でならやまへやってきた。

今年で14回目を迎えたが、当初は10名程度だったと聞かすが今年は25名と年々増加している。



予定の10時より少し前に担任の柴先生と田中教頭先生の誘導でサイクリング道路の水田南側に到着。直ちに、エコの女性会員により赤たすきを掛けてもらい開会に臨んだ。生徒たちは整然と座り富井ならやま委員長の歓迎のあいさつに続いて、6日の事前学習で既に顔なじみの鈴木顧問の再会のあいさつと田植えの具体的な要領や注意事項などを、熱心に聞き入っていました。

例年のように生徒たちは名前を書いた名札を持ち水田西側の畦（あぜ）へ並び、男子生徒18名は北の水田「はぐくみ」、女子生徒7名は南の水田「未来っ子」に北から南へ並んで田植え準備万端。

始まる前に、担任の柴先生のギター伴奏に合わせて「田植え」の歌の全員合唱が始まった。実は事前学習の折に同席していた吉川会員の提案で「田植え」の歌を全員合唱することは校長先生と話がまとまっていた。ならやま女性有志の合唱隊も立ち上がっていたが、柴先生のギター伴奏で生徒たちと一緒に合唱することになった。子供たちは練習の成果を発揮して一番二番を通して声高らかに歌い上げ、田植え気分を盛り上げた。

いよいよ田植え。恐る恐る足を入れ、「ひゃあ〜冷たい!」と足を上げる子。一足踏み入れて、「ヌルヌルして気持ち悪い!」と、子どもたちの



叫び声が響いた。大人たちも大変だ。「大丈夫よ…」、「ゆっくり歩いて…」と、励ましながらの指導。

はじめは遅々として進まない。大丈夫かと思守っている内に次第に慣れてきて足さばき手さばきも良くなってきた。一列ずつの合図にも調子が合ってきた。北の水田「はぐくみ」は全体が軟弱で東側近くに深い所もあり、子供の転倒が心配だったので途中で止めることも考えていた。



水位も高めで条件が悪く、「未来っ子」に比べると出来映えは少々劣ったが、男子生徒は転倒することなく頑張って植え切った。最後の一列が終わるとどこからともなく拍手が聞こえてきた。

報道各社の取材も例年になく熱心で長時間のインタビューもあった。畦にしゃがんだりうつ伏せになったりして、子どもたちの一挙手一投足を逃すまいとカメラに収めていた。夕刻のテレビ放映はもちろんのこと、翌日から新聞各社に掲載され関係の皆さんからの反響の声が届いている。

田植えの後手足を洗い、終わりの会に望んだ子どもたちには達成感が感じられた。感想を述べた生徒の言葉には体験学習の実感がこもっていた。

田植えに続き、生育観察会、秋には稲刈り、脱穀までの水稻栽培体験学習が行われて、子どもたちの自然環境保全に対する関心が高まることを期待したい。